

Prajñāpradīpa-ṭīkā 第 XXIV 章
テキストと和訳 (3)
— uttarapakṣa 2 —

赤羽 律・早島 慧・西山 亮

はじめに

本稿は、8世紀前半のインドに生きた Avalokitavrata の *Prajñāpradīpa-ṭīkā* 第 XXIV 章の校訂テキストと和訳の続編である。第三回目にあたる本稿においては、空性を見誤ることへの戒めが、蛇と呪文の譬喩や梵天勸請のエピソードを交えて文学性豊かに描かれている。また、空であるからこそすべてが成り立つという中観派の立場を、いくつかの経典を用いて証明を試みている。興味深いのは、声聞側が権威として認める聖典からも中観派の立場が論証されると主張している点であり、中観派の学説を従来の教説によって根拠づけようという、教証 (āgama) に関する中観派の態度が看取される。

この度校訂・訳出したテキストのロケーションは次の通りである。

Parts of *Prajñāpradīpa-ṭīkā* corresponding to this text and translation

- *Co ne*: za, 241a7 – 243b4.
- *sDe dge*: Tohoku no. 3859, za, 238a2 – 240a7.
- *dGa' ldan*: no. 3258, za 357b1 – 360b4.
- *sNar thang*: za, 279a5 – 282a2.
- *Peking*: Otani no. 5259, za, 284a5 – 286b7.

(each abbreviation is PPrT-C, PPrT-D, PPrT-G, PPrT-N, PPrT-P in this paper.)

Parts of *Prajñāpradīpa* corresponding to this text and translation

- *Co ne*: *tsha* 229b6 – 231a6.
- *sDe dge*: Tohoku no. 3853, *tsha* 228b7 – 230a7.
- *dGa' ldan*: no. 3252, *tsha* 325b1 – 327b3.
- *sNar thang*: *tsha* 261b6 – 263b3.
- *Peking*: Otani no. 5253, *tsha* 287a6 – 289a3.

(each abbreviation is PPr-C, PPr-D, PPr-G, PPr-N, PPr-P in this paper.)

本稿は赤羽・早島・西山三名の共同作業の結果である。西山の提示した素案に対して、赤羽は中観派の、早島は瑜伽行派の観点から修正を施し、議論を戦わせながらそれぞれの特色を生かした原稿をこれまで公表してきた。赤羽は 2016 年 9 月 17 日に逝去したが、本稿に対する生前のコメントや校訂の方法論によって本稿が成り立っていることは疑いを得ない。したがってこれまで通り、赤羽を筆頭に三名の名前の下に本稿を公表する。

part 1

Translation

目次

- 2.5 空性を見誤った者の末路 [k. 11]
 - 2.5.1 破滅 [k. 11ab] (D238a2-5, P284a5-b1)
 - 2.5.2 蛇と呪文の譬喩 [k. 11cd] (D238a5-7, P284b1-4)
- 2.6 牟尼が説法を一時断念した理由 [k. 12] (D238a7-b3, P284b4-7)
- 2.7 虚無論の排斥 [k. 13]
 - 2.7.1 否定の意味 (D238b3-7, P284b7-285a4)
 - 2.7.2 教証 (D238b7-239a3, P285a4-8)
- 2.8 あらゆるものの成立根拠としての空性 [k. 14]
 - 2.8.1 言語活動の成立 [k. 14ab] (D239a3-5, P285a8-b3)
 - 2.8.2 成立のプロセス (D239a5-b3, P285b3-286a1)
 - 2.8.3 声聞側と大乘側双方からの教証
 - 2.8.3.1 声聞側から (D239b3-4, P286a1-2)
 - 2.8.3.2 大乘側から (D239b4-240a1, P286a2-7)
 - 2.8.4 空性の不成立の結末 [k. 14cd] (D240a1-2, P286a7-b1)
- 2.9 責任転嫁を表した馬の譬喩 [k. 15] (D240a2-4, P286b1-4)
- 2.10 空性の不成立の帰結としての無因論 [k. 16] (D240a4-6, P286b4-6)
- 2.11 無因論の欠陥 [k. 17] (D240a6-7, P286b6-7)

凡例: () = 指示代名詞の内容や原語, [] = 文意を明瞭にするための原文にはない補い, [-] = 原文にはない位置づけ, * = 梵文の想定形; Underline = *Mūlamadhyamaka-kārikā*, **Bold** = *Prajñāpradīpa*.

2.5 空性を見誤った者の末路 [k. 11]

2.5.1 破滅 [k. 11ab] (D238a2–5, P284a5–b1)

さて、賢者でもないのに「賢者である」と己惚れている自宗¹のある者、〔つまり〕有を空性
と見誤る者たちが²、滅亡するという不幸を示すために、「『賢者である』と己惚れているあ
る者は（次のように）思う。『（五）蘊は空性であるから（五蘊を）無と見る、（五）蘊は空性で
はないから（五蘊を）有として見て、自身が（五蘊を）かつて見た、（今）見ている、（これか
ら）見るだろう。（五）蘊は空性であり、（五）蘊と空性は別である。空性には（五）蘊があり、
（五）蘊には空性がある。空性は（五）蘊を伴っている』と。そのように不如理に見、増上慢
を有するかれ（つまり）『智慧の少ない者は、空性を見誤ると破滅する（k. 11ab）』。無分別智
によって³（鈍根の者は）命を落とすから、（かれは）破滅するのである。『見誤る』とは、錯
誤して観察することである。（空と不空とを）『有と無』など（という見）方で観察しているの
である」と〔師 Bhāviveka〕は語ったのである。

2.5.2 蛇と呪文の譬喩 [k. 11cd] (D238a5–7, P284b1–4)

まさにそのことを、たとえをもって示すために、「どのように破滅するかと言うならば、『
誤って掴んだ蛇や、不適切に実行された呪文のようである（k. 11cd）』。〔つまり、〕非常に興
奮し、強い毒のある野生の蛇を誤って掴んだとき、掴んだ本人が破滅する。また、『サファイア
のように青い虚空に昇り、自身の装飾品である宝石の光線で空中を荘厳しよう』と思いなして
呪文を不適切に実行した⁴とき、不完全な方法によって実行した本人が破滅するように、（智
慧の少ない者は、空性を見誤ると破滅する）のである」と〔師 Bhāviveka〕は語ったのである。

2.6 牟尼が説法を一時断念した理由 [k. 12] (D238a7–b3, P284b4–7)

さて、〔そのような〕器でない者に対しては、この大乘〔の教え〕は本来秘められたもので
ある。したがって煩惱を持つ自宗のかれらは、この〔大乘〕を知らない。〔そのことを〕示す
ために、「そのように、空性は知り難く、（智慧の少ない者を）破滅させるので、『それゆえに、
鈍い者によってこの法は見抜き難いとお考えになって、牟尼の御心は法を説くことから退いた
のである（k. 12）』。智慧の鈍い者たちによってこの法は見抜き難いとお考えになって、菩提
を現等覚した者である牟尼の御心は法を説示なさることから後ろに退いたのである」と〔師
Bhāviveka〕は語ったのである。梵天が促さない限り、〔牟尼が〕法輪をお転じになることがな
かったように。

2.7 虚無論の排斥 [k. 13]

2.7.1 否定の意味 (D238b3-7, P284b7-285a4)

さて、自宗の者たちは空性〔という智〕の対象 (**sūnyatārtha*, i.e. **tathatā*)⁵ を知らずに、中観派にこの欠陥⁶ を結びつける。〔自宗の者たちの言う〕それらの欠陥が、中観派にとっての空性には該当しないことを示すために、「『我々に対して『空性が欠陥に陥る』(と主張してきた) 汝がなした異議は、空に関して妥当ではない (k. 13)』。我々に対して、『空性が『もしこのすべてが空であるならば、生じることもなく滅することもない (k. 1ab)』から『以上のように語るならば、三宝を拒斥するのである (k. 5cd)』までの欠陥に陥る』(と主張してきた) 汝らがなした異議は、空性に関して妥当ではない、『勝義として、無を自性とするものとしても空であるので、私は無もまた空として立てないからである』という意図である」と〔師 *Bhāviveka* は〕語ったのである。

それ自身の根拠を示すために、「(空性とは) 別のものとして構想分別された非空性なものを否定することによって、『諸存在は空性である』と言う。(というのも,) 実有などの自性は空だからである。(また,) 空性を定立することもなく、(というのも) 空性を分別することも、空と認めているからである」と〔師 *Bhāviveka* は〕語ったのである。「これは存在性を否定しているのであって、非存在性を支持するのではない」⁷ と〔師 *Nāgārjuna* が〕仰ったやり方で、私 (*Avalokītvratā*) は純粹否定 (**prasajya-pratiṣedha*) を提示しているのであって、定立的否定 (**paryudāsa*) を示しているわけではないからである。

2.7.2 教証 (D238b7-239a3, P285a4-8)

まさに以上のことの典拠を示すために、「経にも『カーシャパ、我見はスメールほどあって(もまだ) ましで、増上慢を有する者の空見は不適切(極まりない)』と(説かれ)」と〔師 *Bhāviveka* は〕語ったのであり、聖『宝積経』⁸ にそう説かれている。同様に、聖『密厳経』においても、「もし、存在が空となったならば、[その見解を] 滅すべきであるが、[その] 滅がない。[そうであれば] スメールほどもある人 (**pudgala*) や我を見ることを、拒斥すべきではない」⁹ と仰ったのである。「同様に、『色を空とも見ないし、不空とも見ない』¹⁰ 云々と仰ったように」について言えば、『般若波羅蜜』にそう仰ったのであり、それ故に、空性と有とに執着することは、不合理である。

2.8 あらゆるものの成立根拠としての空性 [k. 14]

2.8.1 言語活動の成立 [k. 14ab] (D239a3–5, P285a8–b3)

次に、諸存在を自性空と語る中観派にとって、四聖諦や三宝を始めとする一切の言語活動が妥当であることを示すために、「さらに、『空性が成り立っている（とする）者には、すべてが成り立つ (k. 14ab)』。『すべて』とは、生じることなどである」と〔師 Bhāviveka は〕語ったのである。「など」ということばによって、四沙門果・〔その〕果報に住する四者・〔その果に〕向かう四者、三宝、世間的な果報の存在、法・非法、あらゆる言語活動が含まれている¹¹。

2.8.2 成立のプロセス (D239a5–b3, P285b3–286a1)

それら〔生じることなど〕がどのようにして成り立つのかを示すために、「どのようにして成り立つのかと言うならば（次の通りである）。幻の人に『人』という自性が欠けている（空）ように、眼など（＝果）は『有・無』などの自性を欠いているけれども、縁がすべて揃えば生起することになる。〔それが〕『生じること』であって、それは苦なのである。その（生じること）を、苦など〔つまり〕苦・無常・空・無我という諸行相として見るのが、苦諦である。

苦の原因が苦の集であって、（というも）その〔苦〕を生起させるからである。その〔苦諦〕を、集など〔つまり〕集・生・因・縁という諸行相として見るのが集諦である。苦の原因を滅することが滅諦である。その〔集諦〕を、滅など〔つまり〕滅・静・妙・離という諸行相として見るのが滅諦である。苦の原因の滅を獲得する方法が道である。その〔滅諦〕を、道など〔つまり〕道・如・行・出という諸行相として見るのが道諦である。したがって、そのように四聖諦があるとき、法もまた成立し、自然智¹²によってかれはすべての行相を証得するから、声聞に対する教説にしたがって¹³、仏も成立しているのである」と〔師 Bhāviveka は〕語ったのである。

2.8.3 声聞側と大乘側双方からの教証

2.8.3.1 声聞側から (D239b3–4, P286a1–2)

まさにその根拠は、声聞たちの中での定説であることを示すために、「ちょうど、『比丘たちよ、『これは苦である』という、私が以前には聞いたことのない（諸法）を（如理作意して）、眼、知、智慧、知識が生じた¹⁴』¹⁵と仰ったように」と〔師 Bhāviveka は〕語ったのであり、四諦の〔各〕支分にも同様に、適宜あてはめるべきである。

2.8.3.2 大乘側から (D239b4–240a1, P286a2–7)

さて、大乘の流儀によって、四諦などがどのようにして成り立つのかを示すために、「（世尊が先のように仰ったのと）同様に、勝義として、幻のような自性を持つ諸存在を、不生などと

見ることが、『聖諦を見ること』なのであり」と〔師 Bhāviveka は〕語ったのである。まさにその根拠は、大乘における定説であることを示すために、「ちょうど、『マンジュシュリー、一切法を不生と見る者は、苦を遍知する¹⁶。一切法を不住と見る者は、集を断滅する。一切法を究極の(*atyanta)涅槃と見る者は、滅を証得する。マンジュシュリー、一切法を修習不可能と見る者は、道を修習する』¹⁷と仰ったように」と〔師 Bhāviveka は〕語ったのであり、聖『秘密智の修習に入るという経』にそう説かれている。「大乘の流儀によっても、四諦が成立するならば法と仏も成立するから、すべては成り立つことになるのである」とは、まとめである。

2.8.4 空性の不成立の結末 [k. 14cd] (D240a1–2, P286a7–b1)

さて、「有」と「無」という〔両〕極端に陥っている不空性論者の自宗の者などには、〔四〕聖諦などのすべてが成り立たないことを示すために、「不空性論者（つまり）、『空性¹⁸が成り立たない（とする）者には、すべてが成り立たない（k. 14cd）』。不空性論者には、上述のようなものすべてが成り立たなくなる」と〔師 Bhāviveka は〕語ったのである。

2.9 責任転嫁を表した馬の譬喩 [k. 15] (D240a2–4, P286b1–4)

さて、諸存在の無自性性を認めない自宗の者たちには、〔四〕聖諦などのすべてが成り立たなくなるという欠陥が〔かれら〕自身にあり、〔かれ〕らが中観派に〔その欠陥を〕転嫁するのは、不合理なやり方であることを示すために、「『自身の諸欠陥を私に転嫁しようとする汝は、馬に乗りながら、その馬を放念してしまっているようなものである（k. 15）』¹⁹。自身の諸欠陥であるものを私に転嫁しようとする汝は、たとえば、馬に乗りながら、その馬を放念してしまっているようなものである」と〔師 Bhāviveka は〕語ったのである。

2.10 空性の不成立の帰結としての無因論 [k. 16] (D240a4–6, P286b4–6)

さて、「空性が成り立たない（とする）者には、すべてが成り立たない（k. 14cd）」というまさにその〔主張の〕根拠を示すために、「『空性を認めない者にはすべてが妥当ではない』というように、これ（k. 14cd 偈）が説明されるべきである。（なぜなら、）『汝がもし諸存在は自性として存在すると見るならば、その場合、諸存在を無因縁と見ていることになってしまう（k. 16）』、〔つまり〕自性として存在するものは、因縁に依拠しないからである、という意図である」と〔師 Bhāviveka は〕語ったのである。

2.11 無因論の欠陥 [k. 17] (D240a6–7, P286b6–7)

「無因縁」というその見方を示すために、「『（汝は、）結果とその原因、行為主体と行為手段と行為、生と滅、そして（行為の）結果を否定しているのである（k. 17）』。因縁に依拠すること

なしに、結果などは成立しないからである」と〔師 Bhāviveka は〕語ったのである。

part 2

Text

Contents

2.5 The downfall of the person who sees Emptiness wrongly [k. 11]

2.5.1 His ruin [k. 11ab] (D238a2–5, P284a5–b1)

2.5.2 The similes of a snake mishandled and a spell miscast [k. 11cd] (D238a5–7, P284b1–4)

2.6 The reason why the Muni abandoned preaching [k. 12] (D238a7–b3, P284b4–7)

2.7 Rejection of nihilism [k. 13]

2.7.1 The meaning of negation (D238b3–7, P284b7–285a4)

2.7.2 Textual evidence (D238b7–239a3, P285a4–8)

2.8 Emptiness establishes everything [k. 14]

2.8.1 Emptiness establishes linguistic activity [k. 14ab] (D239a3–5, P285a8–b3)

2.8.2 Emptiness establishes the Four Noble Truths, Dharma, and Buddha (D239a5–b3, P285b3–286a1)

2.8.3 Textual evidence

2.8.3.1 Evidence derived from a Śrāvaka text (D239b3–4, P286a1–2)

2.8.3.2 Evidence derived from Mahāyāna texts (D239b4–240a1, P286a2–7)

2.8.4 The downfall of the person who fails to establish Emptiness [k. 14cd] (D240a1–2, P286a7–b1)

2.9 The simile of a horse [k. 15] (D240a2–4, P286b1–4)

2.10 The view that things have no cause results from the failure to establish Emptiness [k. 16] (D240a4–6, P286b4–6)

2.11 Rejection of the view that things have no cause [k. 17] (D240a6–7, P286b6–7)

*Underline = *Mūlamadhyamaka-kārikā*, **Bold** = *Prajñāpradīpa*; ins. = insert(s), om. = omit(s).

2.5 The downfall of the person who sees Emptiness wrongly [k. 11]

2.5.1 His ruin [k. 11ab] (D238a2–5, P284a5–b1)

da ni rañ gi sde pa mi mkhas pa mkhas parⁱ rlom pa gañ dños po stoñ pa ñid la blta ñes pa dag chud zaⁱⁱ bar 'gyur ba'i ñes dmigs bstan pa'i phyir / **mkhas par rlom pa gañ phuñ po rnams stoñ pa ñid las** ⁱⁱⁱdños po med par lta ba dañ /^{iv} **phuñ po rnams mi stoñ pa ñid las dños por lta ba dañ / bdag gis mthoñ bar gyur to // mthoñ ño //**^v **mthoñ bar 'gyur ro // phuñ po rnams stoñ pa ñid do // phuñ po rnams las stoñ pa ñid g'zan no // stoñ pa ñid la phuñ po rnams yod do // phuñ po rnams la stoñ pa ñid yod do // stoñ pa ñid phuñ po rnams dañ ldan no** ^{vii}sñam du sems pa de ltar tshul b'zin ma yin par lta ba ^{viii}mñon pa'i ña rgyal can de ni /^{ix}

stoñ pa ñid la lta ñes na //

śes rab chuñ ldan phuñ bar byed // k. 11ab^x

rnam par mi rtog pa'i śes rab kyis^{xi} srog gi bar chad byed pa'i phyir **phuñ bar byed do //**^{xii} **blta**^{xiii} **ñes** 'zes bya ba ni log par mthoñ ba ste / dños po dañ ^{xiv}dños po med pa la sogs pa'i tshul du mthoñ ba'o ^{xv}'zes bya ba smras so //

2.5.2 The similes of a snake mishandled and a spell miscast [k. 11cd] (D238a5–7, P284b1–4)

de ñid dpes bstan pa'i phyir / **ji ltar phuñ bar byed ce na** /^{xvi}

ji ltar sbrul la bzuñ^{xvii} ñes dañ //

rig sñags ñes par bsgrubs pa b'zin // k. 11cd^{xviii}

sbrul rgod de khro gtum che ba dug drag po bzuñ^{xix} **ñes na**^{xx} 'dzin par byed pa ñid **phuñ bar byed pa dañ / nam mkha' an da rñil ltar sño** ^{xxi}la 'phags te / rañ gi rgyan gyi nor bu'i 'od zer dag gis bar snañ brgyan par bya'o ^{xxii}sñam du yid la bsam pa byas pas^{xxiii} **rig sñags ñes par bsgrubs na** ^{xxiv}sgrub^{xxv} pa po ñid cho ga ñams pas **phuñ bar byed pa**^{xxvi} **ltar ro** ^{xxvii}'zes bya ba smras so //

ⁱ PPrT-PNG mi mkhas pa mkhas par: PPrT-DC mi mkhas par ⁱⁱ PPrT-G zad ⁱⁱⁱ PPr-PNG ins. / ^{iv} PPr-G om. / ^v PPrT-PNG om. // ^{vi} PPr-G ins. gyur to // ^{vii} PPr-PNG ins. // ^{viii} PPr-PNG ins. / ^{ix} PPr-PNG // ^x MMK k. 11ab: **vināśayati durdrṣṭā śūnyatā mandamedhasam /** ^{xi} PPrT-PNG, PPr kyi ^{xii} PPrT-N / ^{xiii} PPr lta ^{xiv} PPr ins. / ^{xv} PPrT-PNG, PPr ins. // ^{xvi} PPr-NG // ^{xvii} PPrT-PNG, PPr-PNG gzuñ ^{xviii} MMK k.11cd: **sarpo yathā durgrhīto vidyā vā dusprasādhitā //** ^{xix} PPrT, PPr-DC bzuñ: PPr-PNG gzuñ ^{xx} PPrT-DC na: PPrT-PNG nas: PPr-DCPN ni /: PPr-G ni // ^{xxi} PPr ins. ba ^{xxii} PPr-PNG ins. // ^{xxiii} PPrT pas: PPr-DC pa /: PPr-PNG pas / ^{xxiv} PPr-DCPN ins. /: PPr-N ins. // ^{xxv} PPrT-NG bsgrub ^{xxvi} PPrT-G par ^{xxvii} PPrT-PNG, PPr ins. //

2.6 The reason why the Muni abandoned preaching [k. 12] (D238a7–b3, P284b4–7)

da ni snod du ma gyur pa la theg pa chen po 'di rañ bžin gyis gsañ bas rañ gi sde pa ñon moñs pa de dag gis 'di miⁱ śes par bstan pa'i phyir / **gañ gi phyir de ltar stoñ pa ñid śes par dka' zñ gnod paⁱⁱ byed parⁱⁱⁱ /^{iv}**

de phyir žan pas chos 'di yi^v //

gtiñ rtogs dka' bar mkhyen gyur nas //

thub pa'i thugs ni chos bstan las //^{vi}

rab tu log par gyur pa yin // k. 12 ^{vii}

śes rab žan^{viii} pa rnam^s k^{yis} chos 'di'i gtiñ rtogs^{ix} par dka' bar mkhyen par gyur nas^x thub pa byañ chub mñon par^{xi} sañs rgyas pa'i thugs^{xii} chos bstan par mdzad pa las slar log par gyur to^{xiii} žes bya ba smras te / Tshañs pas ma bskul gyi bar du chos kyi 'khor lo bskor bar mi mdzad pa lta bu'o //

2.7 Rejection of nihilism [k. 13]

2.7.1 The meaning of negation (D238b3–7, P284b7–285a4)

da ni rañ gi sde pa dag stoñ pa ñid kyⁱ don mi śes par dbu ma pa la skyon 'di 'dogs pa^{xiv} skyon de dag dbu ma pa'i stoñ pa ñid la mi 'thad par bstan pa'i phyir /

khyod ni ña la stoñ pa ñid //

skyon du thal bar 'gyur ba yis //

spon bar byed pa gañ yin pa //

de ni stoñ la mi 'thad do // k. 13 ^{xv}

khyod kho bo cag^{xvi} la stoñ pa^{xvii} ñid //^{xviii}

gal te 'di dag kun stoñ na //

'byuñ ba med ciñ 'jig pa med // k. 1ab

ⁱ PPrT-PNG mi: PPrT-DC, PPr ni ⁱⁱ PPr-PNG par ⁱⁱⁱ PPr pa ^{iv} PPrT-G // ^v PPrT-C, PPr yi: PPrT-D mi: PPrT-PNG yis ^{vi} PPr-P / ^{vii} MMK k. 12: **ataś ca pratyudāvṛttam cittam deśayitum muneh / dharmam matvāsya dharmasya mandair duravagāhatām //** ^{viii} PPr-G gžan ^{ix} PPrT-P gtogs ^x PPr ins. / ^{xi} PPrT-PNG, PPr ins. rdzogs par ^{xii} PPr ins. / ^{xiii} PPrT-PNG, PPr ins. // ^{xiv} PPrT-G par ^{xv} MMK k. 13: **śūnyatāyām adhilayam yaṃ punaḥ kurute bhavān / doṣaprasaṅgo nāsmākam* sa śūnye nopapadyate //** (*Ye ed. suggests doṣaprasaṅgenāsmākam). ^{xvi} PPrT om. cag ^{xvii} PPrT-DCPN, PPr pa: PPrT-G la ^{xviii} PPrT-DC //

ces bya ba nas /

de skad smraⁱ na dkon pa'i mchog //

gsum la gnod pa byed pa yin // k. 5cd

zés bya ba'i bar gyiⁱⁱ skyon du thal bar 'gyur ba dag gisⁱⁱⁱ spoñ bar byed pa gañ yin pa de ni ston pa ñid^{iv} la mi 'thad de / don dam par ni dños po med pa'i no bo ñid kyas kyañ ston pa'i phyir^v kho bo dños po med pa^{vi} yañ ston^{vii} par mi byed pa'i phyir ro^{viii} zés bya bar dgoñs so ix zés bya ba smras so //

de ñid kyi 'thad pa bstan pa'i phyir / gzan gyis^x yoñs su brtags^{xi} pa'i mi ston pa ñid dgag pas / dños po rnams^{xii} ston no zés smras te / dños po yod pa la sogs pa'i^{xiii} no bo ñid ston pa'i phyir ro //^{xiv} ston pa ñid du sgrub^{xv} pa yañ ma yin te / ston pa ñid du rnam par rtog pa yañ ston par 'dod pa'i phyir ro^{xvi} zés bya ba smras te / ji skad du /

'di ni yod ñid 'gog pa ste //

med ñid yoñs su 'dzin ma yin //

^{xvii}

zés gsuñs pa'i tshul gyis / kho bo med par dgag pa ston gyi / ma yin pa dgag pa mi ston pa'i phyir ro //

2.7.2 Textual evidence (D238b7–239a3, P285a4–8)

de ñid kyi khuñs bstan pa'i phyir / mdo sde las kyañ^{xviii} ji skad du / 'od sruñs bdag tu lta ba^{xix} ri rab tsam ni bla'i^{xx} /^{xxi} mñon pa'i na rgyal^{xxii} can gyi ston pa ñid du lta ba ni mi ruñ no zés bya ba dañ^{xxiii} zés bya ba^{xxiv} smras te / 'phags pa dKon mchog brtsegs pa'i mdo las de skad gsuñs so // de bzin du 'phags pa sTug po bkod^{xxv} pa'i mdo las kyañ //^{xxvi}

gal te dños po ston gyur na //

gzig byar 'gyur gyi^{xxvii} 'jig pa med^{xxviii} //

ri rab tsam gyi^{xxix} gañ zag dañ //

bdag tu lta ba gnod^{xxx} mi 'gyur //

zés kyañ gsuñs so //

de bzin du^{xxxi} gzugs ston zés bya bar mi mthoñ^{xxxii} //^{xxxiii} mi ston^{xxxiv} zés

ⁱ PPr smras ⁱⁱ PPrṬ-DC gyis ⁱⁱⁱ PPr-PNG gi ^{iv} PPr om. ñid ^v PPr ins. / ^{vi} PPr par ^{vii} PPrṬ-PNG ston ^{viii} PPr-PNG ins. // ^{ix} PPr ins. // ^x PPr-P kyas ^{xi} PPr-NG brtag ^{xii} PPrṬ-PNG om. rnams ^{xiii} PPrṬ pa'i: PPr pa ^{xiv} PNG om. // ^{xv} PPrṬ-DC bsgrub ^{xvi} PPrṬ-DC phyir ro: PPrṬ-PNG phyir /: PPr phyir ro // ^{xvii} PNG om. // ^{xviii} PPr-DC om. kyañ ^{xix} PPrṬ-G om. ba ^{xx} PPrṬ-C gla'i: PPr-DC sla'i ^{xxi} PPrṬ-DC om. / ^{xxii} PPrṬ-PNG, PPr mñon pa'i na rgyal, PPrṬ-D brgyal ^{xxiii} PPr-PNG ins. / ^{xxiv} PPrṬ-DC om. dañ zés bya ba ^{xxv} PPrṬ-NG dkod ^{xxvi} PPrṬ-D // ^{xxvii} PPrṬ-PNG gyis ^{xxviii} PPrṬ-DC min ^{xxix} PPrṬ-DC gyis ^{xxx} PPrṬ-D gnad ^{xxxi} PPrṬ-PNG om. du ^{xxxii} PPrṬ-DC, PPr-DCPN mthoñ: PPrṬ-NG 'thad do: PPrṬ-P 'thod do: PPr-G mthoñ no ^{xxxiii} PPr-DCPN / ^{xxxiv} PPr-PNG ins. no

bya bar yañⁱ mi mthoñ ñoⁱⁱ ⁱⁱⁱžes bya ba la sogs pa gsuñs pa lta bu'o^{iv} žes bya ba ni Śes rab kyi pha rol tu phyin pa las de skad gsuñs te / de'i phyir stoñ pa ñid dañ / dños par^v mñon par žen par byar mi ruñ ño //

2.8 Emptiness establishes everything [k. 14]

2.8.1 Emptiness establishes linguistic activity [k. 14ab] (D239a3–5, P285a8–b3)

da ni dbu ma pa dños po rnams ño bo ñid stoñ pa ñid du smra ba la 'phags pa'i bden pa bži dañ / dkon mchog gsum la sogs pa tha sñad thams cad 'thad par bstan pa'i phyir / **gžan yañ /**

gañ la stoñ pa ñid ruñ^{vi} ba //

de la thams cad ruñ bar 'gyur // k. 14ab ^{vii}

thams cad ces bya ba ni skye ba la sogs pa'o^{viii} žes bya ba smras te / stsogs pa'i sgras ni bden pa bži dañ / dge sbyoñ gi 'bras bu bži dañ /^{ix} 'bras bu la xgnas pa bži dañ / žugs pa bži dañ / dkon mchog gsum dañ / 'jig rten pa'i 'bras bu yod pa dañ / chos dañ /^{xi} chos ma yin pa dañ / tha sñad thams cad bsdu'o //

2.8.2 Emptiness establishes the Four Noble Truths, Dharma, and Buddha (D239a5–b3, P285b3–286a1)

de dag ji ltar ruñ bar 'gyur ba bstan pa'i phyir / **ji ltar ruñ bar 'gyur že na / mig la sogs pa sgyu ma'i skyes bu la^{xii} ^{xiii}skyes bu'i ño bo ñid stoñ pa bžin du yod pa dañ ^{xiv}med pa la sogs pa'i ño bo ñid stoñ yañ /^{xv} rkyen gyi^{xvi} tshogs pa mtha'^{xvii} dag yod na ^{xviii}'byuñ bar 'gyur ba ni skye ba ste /^{xix} de ni sdug bsñal lo //^{xx} de sdug bsñal ba la sogs pa /^{xxi} sdug bsñal ba dañ / mi rtag pa dañ / stoñ pa dañ / bdag med pa'i rnam pa dag gis mthoñ ba gañ yin pa de ni sdug bsñal gyi bden pa'o //**

sdug bsñal gyi rgyu^{xxii} ni sdug bsñal kun 'byuñ ba ste / de la^{xxiii} kun 'byuñ ba'i phyir ro // **de kun 'byuñ ba la sogs pa^{xxiv} kun 'byuñ ba dañ / rab tu skye ba dañ /^{xxv} rgyu dañ^{xxvi} rkyen gyi rnam pa dag gis mthoñ ba gañ yin pa de ni kun 'byuñ gi bden pa'o //** **sdug bsñal gyi rgyu 'gog pa ni 'gog pa^{xxvii} ste / de 'gog pa la sogs pa^{xxviii} / 'gog pa dañ / ži ba dañ / gya nom pa**

ⁱ PPr-DC om. yañ ⁱⁱ PPrT-DC, PPr mthoñ ño: PPrT-PNG 'thad do ⁱⁱⁱ PPr-PG ins. //, PPr-N ins. / ^{iv} PPr-P ins. /, PPr-DCNG ins. // ^v PPrT-CPNG por ^{vi} PPrT-D rañ ^{vii} MMK k. 14ab: **sarvam ca yujyate tasya śūnyatā yasya yujyate /** ^{viii} PPr ins. // ^{ix} PPrT-G om. 'bras bu bži dañ / ^x PPrT-PNG ins. skyes bu ^{xi} PNG om. / ^{xii} PPrT-PNG om. skyes bu la ^{xiii} PPr ins. / ^{xiv} PPrT, PPr-DCNG ins. /: PPr-P ins. // ^{xv} PPrT-NG stoñ pa dañ /: PPrT-P stoñ dañ /, PPr stoñ yañ ^{xvi} PPrT-PNG, PPr-C gyis ^{xvii} PPr-PNG om. mtha' ^{xviii} PPr ins. / ^{xix} PPr-C // ^{xx} PPr-P / ^{xxi} PPrT-PNG om. / ^{xxii} PPr-P rgyun ^{xxiii} PPrT la: PPr las ^{xxiv} PPrT pa: PPr pa'i ^{xxv} PPrT-N om. / ^{xxvi} PPrT-PNG om. rgyu dañ ^{xxvii} PPrT-PNG om. ni 'gog pa ^{xxviii} PPrT pa: PPr pa'i

dañ / ñes par 'byuñ ba'i rnam pa dag gisⁱ mthoñ ba gañ yin pa de ni 'gog pa'i bden pa'o //
 sdug bsñal gyi rgyu 'gog paⁱⁱ 'thobⁱⁱⁱ pa'i thabs ni lam ste / de lam la sogs pa^{iv} lam dañ rigs
 pa dañ / sgrub pa dañ / ñes par 'byin pa'i rnam pa dag gis mthoñ ba gañ yin pa de^v ni^{vi} lam
 gyi bden pa'o // de'i phyir^{vii} de ltar 'phags pa'i bden pa bži yod na chos kyañ 'grub la / rañ
 byuñ gi ye śes kyis^{viii} de rnam pa^{ix} thams cad^x thugs su chud pa'i phyir^{xi} ñan thos la bstan
 pa dañ rjes su mthun pas sañs rgyas kyañ^{xii} 'grub ste^{xiii} zes bya ba smras so //

2.8.3 Textual evidence

2.8.3.1 Evidence derived from a Śrāvaka text (D239b3–4, P286a1–2)

de ñid kyī khuñs ñan thos la grags pa bstan pa'i phyir / **ji skad du^{xiv} dge sloñ dag ñas sñon 'di
 ni sdug bsñal lo zes rjes^{xv} su ma thos pa^{xvi} dag na^{xvii} mig dañ /^{xviii} śes pa dañ / śes rab dañ /^{xix}
 blo skyes so zes gsuñs pa lta bu'o^{xx} zes bya ba smras te / bden pa bži char^{xxi} la yañ de bzin du
 ci rigs par sbyar ro //**

2.8.3.2 Evidence derived from Mahāyāna texts (D239b4–240a1, P286a2–7)

da ni theg pa chen po'i tshul gyis bden pa bži la sogs pa ji ltar ruñ bar 'gyur ba bstan pa'i phyir /
**de bzin du don dam par dños po sgyu ma lta bu'i ño bo ñid dag^{xxii} skye ba med pa la sogs
 par mthoñ ba ni^{xxiii} 'phags pa'i bden pa mthoñ ba yin te^{xxiv} zes bya ba smras so // de ñid kyī
 khuñs theg pa chen po las grags pa bstan pa'i phyir / **ji skad du^{xxv} Jam dpal^{xxvi} gañ gis chos
 thams cad skye ba med par mthoñ ba des sdug bsñal yoñs su śes so // gañ gis^{xxvii} chos thams
 cad mi gnas par mthoñ ba des kun 'byuñ spañs so // gañ gis^{xxviii} chos thams cad gtan^{xxix} du
 mya ñan las 'das par mthoñ ba^{xxx} des 'gog pa mñon sum du byas so // 'jam dpal gañ gis chos
 thams cad bsgom du med par mthoñ ba des lam bsgoms so^{xxxi} zes^{xxxii} gsuñs pa lta bu ste
^{xxxiii} zes bya ba smras te / 'phags pa *Ye śes gsañ ba bsgom du bcug pa'i mdo* las de skad gsuñs so //
**theg pa chen po'i tshul gyis kyañ^{xxxiv} 'phags pa'i bden pa^{xxxv} grub na / chos dañ sañs rgyas
 kyañ^{xxxvi} 'grub pas thams cad^{xxxvii} ruñ bar 'gyur ro^{xxxviii} zes bya ba ni mjug bsdu ba yin no //******

ⁱ PPr-PNG ins. / ⁱⁱ PPr om. / ⁱⁱⁱ PPrṭ-P 'thog ^{iv} PPrṭ pa: PPr pa'i ^v PPrṭ-DCNG, PPr de: PPrṭ-P da ^{vi} PPrṭ
 ins. de'i ^{vii} PPr ins. / ^{viii} PPr ins. / ^{ix} PPrṭ-PN, PPr de rnam pa: PPrṭ-DC de rñams, PPrṭ-G de rñams pa ^x PPr
 ins. las ^{xi} PPr ins. / ^{xii} PPrṭ-DCPG, PPr kyañ: PPrṭ-N kyis ^{xiii} PPr-DCPN ins. / ^{xiv} PPr ins. / ^{xv} PPr-DC
 om. rjes ^{xvi} PPrṭ pa thos pa: PPr mthoñ ba ^{xvii} PPr-PNG na: PPrṭ, PPr-DC ni ^{xviii} PPr om. / ^{xix} PPr om. /
^{xx} PPrṭ-PNG, PPr ins. // ^{xxi} PPrṭ-PNG car ^{xxii} PPr-DCNG ins. / PPr-P ins. // ^{xxiii} PPrṭ, PPr-DC ni: PPr-PNG na
^{xxiv} PPrṭ-G, PPr ins. / ^{xxv} PPr ins. / ^{xxvi} PPr-G ins. gañ dpal ^{xxvii} PPrṭ-G gi ^{xxviii} PPr-PNG gi ^{xxix} PPrṭ-DC,
 PPr gtan: PPrṭ-PNG bstan ^{xxx} PPrṭ-G bar ^{xxxi} PPr-PNG ins. // ^{xxxii} PPrṭ-G ins. bya ^{xxxiii} PPr ins. / ^{xxxiv} PPr
 ins. / ^{xxxv} PPr-G ins. bden pa ^{xxxvi} PPrṭ ins. thams cad ^{xxxvii} PPr ins. kyañ ^{xxxviii} PPr ins. //

2.8.4 The downfall of the person who fails to establish Emptiness [k. 14cd] (D240a1–2, P286a7–b1)

da ni rañ gi sde pa la sogs pa stoñ pa ñid ma yin parⁱ smra ba gañ dag dños po dañ dños po med pa'i mthar lhuñ ba dag la 'phags pa'i bden pa la sogs pa thams cad mi ruñ bar bstan pa'i phyir / stoñ pa ñid ma yin par smra ba /ⁱⁱ

gañ la stoñ ⁱⁱⁱ ñid mi ruñ ba //^{iv v}

de la thams cad mi ruñ 'gyur // k. 14cd ^{vi}

gañ stoñ pa ñid ma yin par smra ba la ji skad bstan pa thams cad mi ruñ bar 'gyur ro ^{vii} zes bya ba smras so //

2.9 The simile of a horse [k. 15] (D240a2–4, P286b1–4)

da ni rañ gi sde pa dños po rnams ño bo ñid med pa ñid du mi 'dod pa rnams la 'phags pa'i bden pa la sogs pa thams cad mi ruñ bar 'gyur ba'i skyon rañ la yod pa rnams dbu ma pa^{viii} la yoñs su sgyur bar byed pa mi rigs pa'i tshul bstan pa'i phyir /

khyod ñid rañ gi skyon rnams ni //

ña la yoñs su sgyur byed pa //

rta la ^{ix} mñon par zón bzin du //

rta ñid brjed ^x par gyur ^{xi} pa bzin // k. 15 ^{xii}

khyod ñid rañ gi skyon gañ dag yin pa de dag kho bo la yoñs su sgyur bar byed pa ni ^{xiii} dper na rta la mñon par zón bzin du rta de ^{xiv} ñid brjed par gyur ^{xv} pa bzin no ^{xvi} zes bya ba smras so //

2.10 The view that things have no cause results from the failure to establish Emptiness [k. 16] (D240a4–6, P286b4–6)

da ni

gañ la stoñ ñid mi ruñ ba //

ⁱ PPrT-G pa ⁱⁱ PPrT-PNG om. / ⁱⁱⁱ PPrT-PN ins. pa ^{iv} PPrT-G gañ stoñ pa ñid mi ruñ ba / ^v PPr-G ins. gañ la stoñ ñid mi ruñ ba ^{vi} MMK k. 14cd: sarvam na yujyate tasya śūnyam yasya na yujyate // ^{vii} PPr ins. // ^{viii} PPrT-PNG om. pa ^{ix} PPrT-G om. la ^x PPrT-PNG rjed ^{xi} PPr-PNG 'gyur ^{xii} MMK k. 15: sa tvam dosān ātmaniñān asmāsu paripātayan / aśvam evābhirūdhah sann aśvam evāsi vismrtaḥ // (Cf. Yonezawa 2006 and Niisaku 2017). ^{xiii} PPr ins. / ^{xiv} PPrT-PNG om. de ^{xv} PPr-PNG 'gyur ^{xvi} PPr ins. //

de la thams cad mi ruñⁱgyur // k. 14

zes bya ba de ñid kyi 'thad pa bstan pa'i phyir / **ji ltar stoñ pa ñid mi 'dod pa la thams cad mi 'thad pa de ltar 'diⁱⁱ bśad par bya ste /**

gal te dños rnams dños ñid las //ⁱⁱⁱ

yod par^{iv} rjes su lta byed na //

de lta yin na dños po rnams^v //

rgyu rkyen med par khyed^{vi} lta'o^{vii} //^{viii} k. 16^{ix}

ño bo ñid las yod pa ni rgyu dañ rkyen la mi ltos^x pa'i phyir ro ^{xi}zes bya bar dgoñs so ^{xii}zes bya ba smras so //

2.11 Rejection of the view that things have no cause [k. 17] (D240a6–7, P286b6–7)

rgyu dañ rkyen med par lta ba de'i tshul bstan pa'i phyir /

'bras bu dañ ni rgyu ñid dañ //

byed pa po dañ byed dañ bya^{xiii} //

skye ba dañ ni 'gag pa dañ //^{xiv}

'bras bu la yañ gnod pa byed //^{xv} k. 17 ^{xvi}

rgyu dañ^{xvii} rkyen la ma^{xviii} ltos^{xix} par 'bras bu la sogs pa^{xx} mi 'grub pa'i phyir ro ^{xxi}zes bya ba smras so //

ⁱ PPrṭ-G ins. ba ⁱⁱ PPr 'dir ⁱⁱⁱ PPrṭ-G /; PPrṭ-N om. // nor / ^{iv} G om. par ^v PPr-G rnam ^{vi} PPrṭ-PNG, PPr khyod ^{vii} PPrṭ-DC la'o ^{viii} PPr-N / ^{ix} MMK k. 16: svabhāvād yadī bhāvānām sadbhāvam anupaśyasi / ahetupratyayān bhāvāms tvam evaṃ sati paśyasi // ^x PPrṭ-PNG, PPr-PNG bltos ^{xi} PPrṭ-PNG, PPr-PNG ins. // ^{xii} PPr ins. // ^{xiii} PPrṭ-DCPN, PPr-DCG byed dañ bya: PPrṭ-G byed dañ: PPr-PN byed pa bya ^{xiv} PPr-G / ^{xv} PPr-P / ^{xvi} MMK k. 17: kāryam ca kāraṇam caiva kartāram karaṇam kriyām / utpādam ca nirodham ca phalaṃ ca pratibādhase // ^{xvii} PPrṭ, PPr-DCPG dañ: PPr-N la ^{xviii} PPr-PN mi, PPr-C om. ma nor mi ^{xix} PPrṭ-PNG, PPr bltos ^{xx} PPr-DC par ^{xxi} PPrṭ-PNG, PPr ins. //

Notes

¹ 「自宗」と翻訳した「*rañ gi sde pa*」から推測されるサンスクリットの一つに**svayūthya*があり、仏教文献では一般に仏教を指すことばとして考えるのが妥当であろう。「自宗」が何を指すかについての *Avalokītavratā* の具体的な言及は見られないが、後述される次の文章も、「自宗」が「仏教一般」を指すことを支持する。Cf. 本稿 2.6: *da ni snod du ma gyur pa la theg pa chen po 'di rañ bzin gyis gsañ bañ rañ gi sde pa ñon moñs pa de dag gis 'di mi śes par bstan pa'i phyir/* (さて、[そのような] 器でない者に対しては、この大乘 [の教え] は本来秘められたものである。したがって煩悩を持つ自宗のかれらは、この [大乘] を知らない。[そのことを] 示すために)。ここにおいて、大乘の教えが開陳されていない者である「器でない者」が、「煩悩を持つ自宗のかれら」と言い換えられていることから、「煩悩を持つ自宗のかれら」が「大乘以外」を指していることが分かる。同時に、大乘が煩悩を持たない自宗であることが含意されていると考えて差し支えないだろう。したがって、「自宗」とは、大乘とそれ以外、つまり「仏教一般」であることが知られるのである。また、「自宗」と述べている本人である *Avalokītavratā* が中観派の論師であることから、「自宗=中観派」ということも想像されるが、次の文章から、そうではないことが知られる。Cf. 本稿 2.7.1: *rañ gi sde pa dag ston pa ñid kyī don mi śes par dbu ma pa la skyon 'di 'dogs pa* (自宗の者たちは空性 [という智] の対象を知らずに、中観派にこの欠陥を結びつける)。ここにおいて、「自宗」が中観派と対置されていることから、「自宗=中観派」でないのは明らかである。なお、*Avalokītavratā* が「自宗のある者」と注釈する「己惚れているある者」について、漢訳は「外道 (大正 30. 125b16)」としている。

² 原文は *dños po ston pa ñid la blta ñes pa* であり、やや意味の判然としない表現であるが、後続の議論を参照すると、「ものには『空』という性質がある」というような、空性を実体視する謬見を意味していることが分かる。

³ 空性を見誤ることに対する注釈において、「無分別智」が唐突に言及され、また、目標とすべき無分別智が命を奪うという表現にも違和感を感じるであろうが、これには前提があり、空性と無分別智との関係は、PPr XXIV kk.6-7 において既に言及されている。PPr は k.6 に対する注釈において、空性とは「空性を認識する智」であるとする。さらに、先行研究 (Saito1998a, 斎藤 1999 等) において指摘されるように、この「空性を認識する智」は k.7 の注釈で言及される勝義智、無分別智と対応するものと考えられる。この点を背景としながら、空性を見誤ることというこの文脈で無分別智が言及されるものと考えられる。

⁴ この呪文の譬喩のうち、「サファイアのように青い虚空に昇り、自身の装飾品である宝石の光線で空中を荘厳しよう」という思惟の内容については、その背景等を含めて不明瞭な点が多い。おそらく、呪文を唱える際に思惟すべき適切な内容が他にあり、ここでは適切ではない内容を思惟したケースが示されていると考えられる。一方で漢訳は、「如持呪人不依呪法而自損壞 (大正 30. 125b28-29)」となっており、単に「呪文を不適切に実行する」とのみ説明し、チベット語訳のようにその内容については言及していない。

⁵ 赤羽ほか [2013, chap. 2.1.2].

⁶ 「この欠陥 (*skyon 'di*)」の指す内容は、「ものには空性という性質がある」という見方のことであ

る。Cf. 本稿 2.5.1.

⁷ この引用は、PPr ad MMK chap. V k.7 に対する注釈でも引用される (D *tsha* 94a7–b1, P *tsha* 114b3–4) :

de bžin du slob dpon ñid kyis kyañ gžan dag tu / (P //)
 'di ni yod ñid 'gog pa ste // med ñid yoñs su 'dzin pa min //
 nag po min žes smras pa na // dkar po yin žes ma brjod bžin //
 žes gsuñs so //

この偈頌の著者に関しては「*ācārya が他にも」とだけ述べ、言明されていない。一方、PPr との類似が確認される『大乘中観釈論』(大正 30. 145b25–27) でも、同じ偈頌に対する注釈箇所では、

如異部師所説頌言
 遣有言無性 亦不取無性 如説青非青 不欲成其白

と、同じ偈頌が引用される。ただし、著者に関しては「異部師」とされている。両論には「gžan dag / 異」、「slob dpon / 師」と共通点が見られることから、おそらく梵本は類似する文章であり、「異なる部派の ācārya が」あるいは「ある ācārya が他にも」といった内容であったと予想される。いずれにしても、両論ではこの偈頌の著者が明示されていない。なお、漢訳 PPr では「又如偈曰 (大正 30. 72c2)」と著者に関する情報が全く記されていない。一方、この PPr に対する PPrT (D *śa* 85b5–86a1, P *śa* 96a1–4) の注釈は次の通りである：

'dir slob dpon ñid kyis bstan bcos gžan dag gi skabs su bka' stsal pa'i khuñs kyañ bstan pa'i phyir **de bžin du slob dpon ñid kyis kyañ gžan dag tu** /
 'di ni yod ñid 'gog pa ste // med ñid yoñs su 'dzin pa min //
 nag po min žes smras pa na // dkar po yin žes ma brjod bžin //
 žes gsuñs so žes bya ba smras te / slob dpon Klu sgrub kyi žal sña nas kyis ñid kyis 'Jig rten brtag pa
žes bya ba'i bstan bcos mdzad pa las de skad bka' stsal te / dper na 'ga' žig gis nag po ma yin no žes
smras pas des nag po dgag pa tsam ñid byas par zad kyi / dkar po ñid du ma bstan pa de de bžin du
 'dir yañ med par dgag pa'i tshul gyis yod pa ñid dgag pa tsam bstan pas / ma yin par dgag pa'i tshul
 gyis med pa ñid du ma bstan pas chad par lta ba ma yin no //

PPr で明示されていなかった「ācārya」を「ācārya ナーガールジュナ (slob dpon Klu sgrub)」と、「他にも」を『観世間論 ('Jig rten brtag pa, *Lokaparīkṣā)』とし、ナーガールジュナの著作からの引用とするが、Thurman[1984, 384 n.34] などにも指摘されるように、この書物の存在自体がどこにも確認されず、書誌情報は不明である。Tarkajvālā 第 IV 章 (D *dza* 194b3, P *dza* 213a5–6) にもまた同偈は引用され、

ji skad du / (P om. /)
 'di ni yod ñid 'gog pa ste // med ñid yoñs su 'dzin pa min //
 sñon po min žes brjod pa yis // dkar po yin žes brjod dam ci //
 žes gsuñs pas / (P om. /)

と説かれるが引用元に関する情報はない。また、Jñānavajra の『楞伽経』に対する注釈書にもまた引用されている。Lañkāvatāra nāma mahāyānasūtravṛtti tathāgatahṛdayālaṃkāra, D *pi* 57b6–7, P *pi* 67a3–5:

des na dbu ma par smra ba kha cig gsuñ rab kyi phyogs 'ga' žig gam /
 'dir ni yod ñid 'gog ñid kyi // med ñid sgrub par byed pa min // (P om. //)
 žes pa dañ / (P //) gžan yañ /
 yod dañ med dañ yod med ces // khas mi len pa gañ yin pa //
 de la nan tan ldan pas kyañ // cir yañ klan ka bya mi nus // (P /)
 žes slob dpon Klu sgrub la sogs pas bśad pa'i gžuñ la brten nas /

ここでは中観派の教義の根拠が問われ、当該の偈が教証一つとして引用される。この引用は「ācārya Nāgārjuna などによって説かれている (slob dpon Klu sgrub la sogs pas bśad pa)」と言及されることから、Jñānavajra も龍樹の著作と理解していることがうかがえる。いずれにしても、そのソースを見出すに至っていない。

⁸ *Kāśyapaparivarta*, (von Staël-Holstein ed. Section 64, p. 95): varam khalu puna kāśyapa sumerumātrā pudgaladrṣtir āśritā na tv evādhimānikasya śunyatādrṣṭimālinā (Cf. 長尾雅人・荒牧典俊 [1967] 「宝積経」『世界の名著 2 大乘仏典』, 中央公論社, p. 206 下 6-9: 実に、カーシャパよ、慢心のある者が空性という観念(空見)によって(自分の思想を)飾りたてているよりは、スメール山ほどにも大きな個の観念(我見)によっているほうが、まだしもましである)。なお同定はすでに先行研究中でなされている: Uryuzu1971 n. 57, 那須 2000 n. 13.

⁹ 文脈上、空を虚無と見る謬見を戒めることを意図した教証であることは疑いをえないが、やや理解の困難なチベット文である。本稿では「空を無と見る見解より我見の方がまだ良い」という意味に解し、翻訳を作成した。Cf. T16(no. 681, 地婆訶羅訳) p. 743b19-20: 物体若是空 即無能所破 譬如須弥量 我見未為惡; T16(no. 682, 不空訳) p. 772a10-11: 物体若是空 即無能所破 我如妙高山 此見未為得。

¹⁰ Cf. *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā* (Kimura edition, p. 114.28-29): na rūpaṃ śūnyam iti samanupaśyati, na rūpaṃ aśūnyam iti samanupaśyati,

¹¹ 列挙の順番は pūrvapakṣa に同じ。赤羽ほか [2011, chap. 1.2] を参照。

¹² 「自然智」は当該箇所漢訳(大正 30. 125c26)であり、同様の表現 (rañ byuñ gi ye śes) は、*Tarkajvālā* 第 I 章にも見られる。その *Tarkajvālā* の翻訳において Gokhale [1985, p. 83.25-26] は *svayambhu-jñāna を原文として想定し、self-originating knowledge と訳している。Cf. *Tarkajvālā ad Madhyamakahṛdaya* chapter 1 verses 1 to 3 (Heitmann 2004, p. 8.5-7): rig bya min žes bya ba ni rañ byuñ gi ye śes skad cig gcig gis chos thams cad phyin ci ma log par rnam pa thams cad mñon par rtogs pas rig pa med pa'i tshul gyis rig par bya ba'o // (「想像すらできない (asamvedya in *Madhyamakahṛdaya* 1.1c)」について言えば、〔真実 (tattva in *Madhyamakahṛdaya* 1.3a) は、〕一瞬で一切法を顛倒なくすっきり証得する自然智 (rañ byuñ gi ye śes) によって、想像しないという仕方では想像されるべきものである)。

¹³ 「声聞に対する教説にしたがって (ñan thos la bstan pa dañ rjes su mthun pas)」という文言に関しては、文脈上、唐突の感は否めず、漢訳に相当箇所がないことから、原文にその文言が存在しなかった可能性を指摘できるだろう。しかしながらその文言を残した理由は、「声聞の立場で保持されてきた教えに則って、Bhāviveka ひいては Nāgārjuna の主張する大乘の立場を証明できる」というような意味の下にこのセクション(本稿 2.8.2)を理解できると考えたからである。ポイントは、本セクション(本稿 2.8.2)冒頭で述べられている自性空の発想を介した縁起理解である。

¹⁴ この経典の引用は次注で示すように『初転法輪經』を背景とすると考えられる。ただし、所引の経典にはいくつかの異なったパターンがあり、PPr, PPrṭ, 漢訳 PPr にも異同が見られる。試みとして訳してみると、次のようなものとなってしまう：

PPr: 比丘たちよ、私によって「これは苦である」と以前に見た者たちに、/「これは苦である」と以前に私が見た時に、眼、知、智慧、知識が生じた。

PPrṭ: 比丘たちよ、私によって「これは苦である」と以前に聞いたことのない者たちに、/「これは苦である」と以前に私が聞いたことがない時に、眼、知、智慧、知識が生じた。

漢訳 PPr: 比丘たちよ、「苦はこのようである」という、私が以前に聞いたことのない諸法に、眼、知、智慧、知識が生じた (大正 30. 125c28–29: 仏告諸比丘。如是苦者我於往昔不聞諸法中得眼起智起明起覺起)。

このうち、PPrṭ, 漢訳 PPr は文意が通らない。PPr は、文意は通るが『初転法輪經』の「聞く」という表現が「見る」となっており一致しない。さらに、PPr, PPrṭ には「諸法を如理作意する」が欠けており、漢訳 PPr も「如理作意する」が欠けている。また、暫定的に上記の訳を示したが、PPr, PPrṭ の「ñas」, 「dag ni (PPr-PNG na)」の読み方は難解である。「ñas」を「見た/聞いていない」の動作者と理解すると「dag」の複数形が意味をなさず、「dag」の複数形を「する者たち」と理解すると「ñas」の解釈が困難になる。何れにしても、PPr, PPrṭ, 漢訳 PPr は『初転法輪經』と一致せず、内容も理解しがたい。これらの理由から『初転法輪經』を参照の上、「諸法を如理作意して」を補って訳した。なお、『初転法輪經』では「苦」ではなく「苦諦」となっているが、次注で示す *Mahāvastu* に「苦」という記述もあることから、チベット訳、漢訳にしたがって「これは苦である」と訳した。

¹⁵ 前注でも言及したように、この経典は『初転法輪經』と考えられる。この引用については、本庄 [2014, pp. 759.1–761.12] に詳しい。典拠となる箇所を以下に示す。

Samyutta Nikāya 56.11, (vol. V, p. 422.3–6); Mahāvagga (Vinaya vol. 1, p. 11.1–3): idaṃ dukkhaṃ ariyasaccānaṃ ti me bhikkhave pubbe ananussutesu dhammesu cakkhūṃ udapādī ñāṇaṃ udapādī paññā udapādī vijjā udapādī āloko udapādī //

『雜阿含經』(大正 99. 103c14–15): 爾時世尊告五比丘。此苦聖諦所未曾聞法。當正思惟。時生眼智明覺。

『仏説三転法輪經』(大正 110. 504a8–10): 爾時世尊告五苾芻曰。汝等苾芻。此苦聖諦於所聞法如理作意。能生眼智明覺。

『根本説一切有部毘奈耶雜事』(大正 1451. 292b1–3): 爾時世尊告五苾芻曰。汝等苾芻。此苦聖諦於所聞法如理作意。能生眼智明覺。

Saṅghavedavastu, Gnoli edition part 1, p. 135.1–4: tatra bhagavān pañcakān bhikṣūn āmantrayate sma: idaṃ duḥkham āryasatyam iti bhikṣavaḥ pūrvam ananuśruteṣu dharmeṣu yoniśo manasi kurvataś caḥṣur udapādī; jñānaṃ vidyā buddhir udapādī

Mahāvastu, Senart edition vol. 3. p. 332.13–15: idaṃ duḥkham iti bhikṣavaḥ pūrve ananuśrutehi dharmehi yoniso manasikārā jñānaṃ udapāsi caḥṣur udapāsi vidyā udapāsi buddhi udapāsi bhūrur udapāsi prajñā udapāsi ālokaṃ prādurbhūṣi //

また、この経典は *Abhidharmakośa-vyākhyā* 第 VI 章等にも引用される。

Abhidharmakośa-vyākhyā p. 579.20–22: tatra bhagavān pañcakāṃ bhikṣūn āmantrayate sma. idaṃ

duḥkham ārya-satyam iti bhikṣavaḥ pūrvam ananusruteṣu dharmeṣu yoniśo-manasikurvataś cakṣur
udapādi jñānaṃ vidyā buddhir udapādi.

¹⁶ 遍知されるべき苦などの四聖諦の説明については、赤羽ほか [2011, chap. 1.2.1.1] 参照。

¹⁷ この引用経典は、漢訳では『文殊道行経』からの引用とされている。これと同趣旨の内容が『大乘中観釈論』, MMK chap. XXIV k.40 に対する PPrT, PrasP の注釈, 『仏説大乘善見変化文殊師利問法経』などに見出されることが、古坂 2005 によって指摘されている。

¹⁸ この箇所梵文は śūnyam であるが、本稿の方針として PPr および PPrT のチベット語訳の読み方を採用しているため、チベット語訳のまま、あえて「空性」と訳した。

¹⁹k.15 の梵文に関しては、ātmanīyān を ātmanīnān に訂正しうることが指摘されいるが (Cf. Niisaku2017), PPrT の翻訳を行う本稿は、PPrT にしたがって読んだ。なお、**Lakṣaṇaṭīkā* に回収される偈頌では、paripātayan は pariṇāmayan, aśva は ghoṭa となっている (Cf. Yonezawa2006)。

参考文献

(本稿で初めて参照したものに限る)

Gnoli and Venkatacharya

1977 *The Gilgit Manuscript of the Saṅghabhedavastu: Being the 17th and last section of the Vinaya of the Mūlasarvāstivādin*, Serie orientale Roma, vol. 49, Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente, Roma.

Gokhale, V. V.

1985 “Madhyamakahrdayakārikā Tarkajvālā Chapter I” *Miscellanea Buddhica*, Copenhagen, pp. 76–108.

Heitmann, Annette L.

2004 *Nektar der Erkenntnis, Buddhistische Philosophie des 6. Jh.: Bhavyas Tarkajvālā I-III*, 26, Shaker Verlag, Aachen.

Kimura, Takayasu

2007 *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā I-1*, Sankibo Busshorin, Tokyo.

Senart, Émile

1897 *Le Mahāvastu*, Tome Troisième, L’Imprimerie Nationale, Paris.

Thurman, A. F. Robert

1984 *Tsong Khapa’s Speech of Gold in the Essence of True Eloquence: Reason and Enlightenment in the Central Philosophy of Tibet*, Princeton University Press.

新作慶明 (Niisaku, Yoshiaki)

2017 “*Mūlamadhyamakakārikā*, Chapter 18, Verse 2 and the *Prasannapadā*’s Commentary

Thereon” *Journal of Indian and Buddhist Studies*, 65-3, pp. 1198–1204.

古坂紘一

2005 「大乘仏教における四聖諦観の一考察：『般若灯論』観聖諦品所引の経文を中心として」
『印度学仏教学研究』54-1 p. (157)–(163).

本庄良文

2014 『俱舍論註ウパーイカーの研究 訳註篇 下』大蔵出版.

米澤嘉康 (Yonezawa, Yoshiyasu)

2006 “**Lakṣaṇaṭīkā*: Sanskrit Notes on the *Prasannapadā* (3)” *Naritasan Bukkyo Kenkyujo Kiyo* (成田山仏教研究所紀要), 29, pp. 135–163.

The XXIVth chapter of the *Prajñāpradīpa-ṭīkā* Tibetan Text and Japanese Translation (3)

– uttarapakṣa 2 –

Summary

This is the third part of our critical Tibetan text and Japanese translation of Avalokitavrata’s *Prajñāpradīpa-ṭīkā* chapter XXIV, which is a subcommentary on Nāgārjuna’s *Mūlamadhyamakārikā*. In all three parts of our Tibetan edition, we have used English to benefit non-Japanese speakers.

In the section edited in this paper, Avalokitavrata (and also Bhāviveka) warns against a wrong view of emptiness by using the similes of a snake mishandled and a spell miscast. To show the risks of the teaching of emptiness, he refers to the episode of Buddha’s silence when Brahmā asked him to preach the content of awakening. It could be said these parts of Avalokitavrata’s subcommentary are literarily rich. His quotations from canonical texts in this section are also interesting. Avalokitavrata tries to prove the Mādhyamika’s position, that basic Buddhist concepts like the Four Noble Truths are possible only because everything is empty, by citing even the canon of the Śrāvakas. In other words, Avalokitavrata seeks to authorize this Mahāyāna view by using non-Mahāyāna text.

Ritsu Akahane, the chief of our project, passed away on September 17, 2016. This paper is the last work the three of us publish together.

<キーワード> *Prajñāpradīpa-ṭīkā*, Avalokitavrata, 観誓, Bhāviveka, 清弁, uttarapakṣa, 中論, 観四諦品